

スターリン全集刊行会訳

スターリン全集

第七卷

大月書店刊

スターリン全集

一九五二年十二月二十日発行

定価 四八〇円

第七卷

訳者

スターリン全集刊行会

発行者

東京都文京区本郷一ノ五
小林直衛

印刷者

東京都千代田区内幸町二ノ二〇
株式会社太平印刷社

製本者

東京都千代田区錦町三ノ二四
株式会社田中製本所

発行所

東京都文京区本郷
一丁目一五番地

大月書店

電話小石川(85)三〇九一番
振替・東京一六三八七番

訳者はしがき

- 一 本巻は、ソ同盟共産党（ボリシェヴィキ）中央委員会付属 マルクスⅡエンゲルスⅡレーニン研究所編集の『イ・ヴェ・スターリン全集』第七巻の翻訳である。
- 一 スターリンの原注は * をもってしめす。そのほかの注は、日本の読者の便宜を考え、原書の編集者注を参考にし、訳者がつけたものである。ごく簡単な注は、角がっこ「」にかこんで本文中にいられたが、他は事項注と人名注とにわけ、本文の終りに一括してつけた。人名は、本文のなかに出てくるかぎり、原則として、すべて注をつけることにした。事項注は本文に出る注番号の順に、人名注は「アイウエオ」順に、それぞれ排列した。
- 一 原文のゴシック体の箇所は訳文でもゴシック体にし、隔字体の箇所には傍点をつけ、頭文字だけでくんである箇所は活字をいちだん大きくした。ただ見出しのところは、かならずしもこの方針によらなかった。
- 一 本文のうえの欄外にある算用数字は、翻訳底本とした原書のページ数をしめす。
- 一 全集版原書では、『レーニン全集』からの引用のばあい、その第三版の巻数とページ数がしめしてあるが、翻訳にあたっては、それらをすべて第四版の巻数、ページ数にあらためた。
- 一 翻訳の参照は、マルクス、エンゲルスについては、『マルクスⅡエンゲルス選集』（大月書店版）、レーニンについては、『レーニン二巻選集』（社会書房版）によった。したがって角がっこ「」中の巻数、分冊数、

ページ数は、右の二つの選集の巻数、分冊数、ページ数である。

- 一 人名、地名は現地の発音に近く表記することを原則としたが、慣用のものについては、それをもちいたばあ
いが多い。

- 一 翻訳は、それぞれ担当の訳者がまず訳出し、これに校閲者団が、各国語訳および邦訳をも参照しつつ、厳密
に校訂をくわえ、さらに術語、用字、文体などの整理、統一をおこなって、完成したものである。

序 文

イ・ヴェ・スターリン全集第七卷には、一九二五年中に書かれた著作がおさめてある。

この時期に、労働者階級と農民は、ボリシェヴィキ党の指導のもとに国民経済の復興を完成しつつあった。ソヴェト国は、ボリシェヴィキ党第十四回大会の旗じるしとなった社会主義工業化の時期にうつりつつあった。わが国の発展の特質と見通しの問題、ソ同盟における社会主義の運命の問題は、この時期には、すでに実践の問題として、党のまえにあらわれた。

『ロシア共産党（ボ）第十四回協議会の活動の総決算によせて』、『問と答』、『十月革命、レーニンおよび、われわれの発展の見通し』、『ソ同盟共産党（ボ）第十四回大会への中央委員会の政治報告』その他の著作のなかでイ・ヴェ・スターリンは、資本主義的包囲の諸条件のもとで、ソ同盟における社会主義の勝利をめざすボリシェヴィキ党の一般方針を全面的に基礎づけるとともに、資本主義の復興者である、トロツキー一味とジノーヴィエフ一味の降伏主義的方针をばくろしている。

(VI)

労働者階級と農民の同盟を強固にする問題、勤労大衆と青年とが、社会主義社会の建設に積極的に参加するよう、これを教育し、ひきよせる問題は、『ドイモーフカ』について、『プロレタリアートと農民の問題によせて』、『農村における共産青年同盟の活動分子について』、『共産青年同盟の任務について』、『第一回ソ同盟プロレ

タリア出身学生会議によせて』『東方人民大学の政治的任務について』という労作のなかで、また一九二五年十月十四日の『煽動・宣伝部協議会参加者との会談』、その他の労作のなかで解明されている。

第七卷には、資本主義の部分的安定の諸条件のもとにある、外国の諸共産党の状態と任務にあてられた論文と演説がおさめてある。『国際情勢と共産党の任務によせて』、『チェコスロヴァキア共産党について』、『ユーゴスラヴィアの民族問題によせて』、『ドイツ共産党の前途とポリシエヴィキ化について』、『同志メー——ルトへの手紙』が、それである。

はじめて発表されるものは、つぎのようである、すなわち一九二五年一月十九日のロシア共産党（ボ）中央委員会総会での演説、一九二五年十月十四日の煽動・宣伝部会議の参加者との会談、『コムソモールスカヤ・プラウダ』編集員への手紙、同志ダー——オフ、メー——ルトおよびエルマコフスキーへの手紙である。

ソ 同盟共産党（ボ）中央委員会付属
マルクス・エンゲルス・レーニン研究所

目 次

序 文	三
婦人労働者と農村婦人よ、イリイッチの遺訓を銘記し、遂行せよ！	一三
教員大会によせて	一五
『クラースナヤ・モロヂョージ』誌の任務について	一六
ロシア共産党（ボ）中央委員会・中央統制委員会総会での演説	一八
ロシア共産党（ボ）中央委員会総会での演説	二三
『ラボーチャヤ・ガゼータ』に	二六
同志ダ——オフへの手紙	二九
「ドイモーフカ」について	三三
プロレタリアートと農民の問題によせて	三六
ドイツ共産党の前途とポリシエヴィキ化について	四七

同志タートルトへの手紙	五四
国際婦人デーによせて	六〇
ロシア共産党（ボ）中央委員会から中国国民党中央執行委員会に	六二
国際情勢と共産党の任務とによせて	六四
チエコスロヴァキア共産党について	七〇
ユーゴスラヴィアの民族問題によせて	八〇
農村における共産青年同盟の活動分子について	八八
第一回ソ同盟プロレタリア出身学生会議によせて	九六
ロシア共産党（ボ）第十四回協議会の活動の総決算によせて	一〇二
一 国際情勢	一〇二
二 資本主義諸国の共産党の当面の任務	一二三
三 植民地・従属国の共産主義分子の当面の任務	一二六
四 ソヴェト同盟における社会主義の運命について	一二九
五 農村における党の政策	一三三

六 金屬工業について	一三九
------------------	-----

東方人民大学の政治的任務について	一四四
------------------------	-----

一 東部ソヴェト諸共和国にたいする東方勤労者共産主義大学の任務	一四五
---------------------------------------	-----

二 東洋の植民地・従属国にたいする東方勤労者共産主義大学の任務	一五四
---------------------------------------	-----

『コムソモールスカヤ・プラウダ』編集局の全員に	一六三
-------------------------------	-----

問 と 答	一六六
-------------	-----

ヤ・エム・スヴェルドロフ記念大学に	一七一
-------------------------	-----

ふたたび民族問題によせて	一五五
--------------------	-----

東洋における革命運動について	一五六
----------------------	-----

同志エルマコフスキーへの手紙	一四一
----------------------	-----

煽動・宣伝部協議会参加者との会談	一四四
------------------------	-----

共産青年同盟の任務について	一五〇
---------------------	-----

エム・ヴェ・フルンゼの葬儀での演説	一五九
-------------------------	-----

十月革命、レーニンおよび、われわれの発展の見通し……………二六二

第二十二回レニングラード県党会議幹部会への手紙……………二六五

ソ同盟共産党（ボ）第十四回大会……………二六七

中央委員会の政治報告……………二六九

一 国際情勢……………二六九

一 資本主義の安定……………二七一

二 帝国主義、植民地および半植民地……………二七六

三 戦勝者と敗戦者……………二七八

四 戦勝国のあいだの諸矛盾……………二八四

五 資本主義世界とソヴェト同盟……………二八七

六 ソヴェト同盟の対外情勢……………二九四

七 党の任務……………三〇〇

二 ソヴェト同盟の国内情勢……………三〇三

一 全体としての国民経済……………三〇三

二 工業と農業……………三一九

三 商業の諸問題	三三二
四 諸階級、その積極性、その相互関係	三三四
五 農民問題にかんするレーニンの三つのスローガン	三三七
六 農民問題にかんする二つの危険と二つの偏向	三四二
七 党の任務	三四六
三 党	三四六
中央委員会の政治報告の結語	三五六
一 ソコリニコフとわが国のドーズ化	三五七
二 カーメネフとわれわれの農民にたいする讓歩	三五九
三 誰が誤算したのか	三六三
四 ソコリニコフは貧農をどう擁護するか	三六四
五 思想斗争か中傷か	三六六
六 ネットについて	三六八
七 国家資本主義について	三六九
八 ジノージェフと農民	三七六
九 意見の相違の歴史によせて	三八四

一 反対派の綱領	三九二
二 彼らの「平和愛好」	三九四
三 党は統一を達成するであらう	三九六
事項訳注	三九九
人名訳注	四二一
スターリン年譜（一九二五年）	四二三

一九二五年

(1)

婦人勞働者と農村婦人よ、イリイチの

遺訓を銘記し、遂行せよ！

一年まえ、われわれから去るにあたって、勤勞者の偉大な指導者であり教師である、わがレーニンは、われわれに遺訓をのこし、われわれが共產主義の最後の勝利にむかつてすすむべき道をさしめした。婦人勞働者と農村婦人よ、イリイチのこの遺訓を遂行せよ！ この遺訓の精神にそって子弟を教育せよ！

同志レーニンは、全力をつくして勞働者と農民の同盟を強化せよという遺訓をのこした。婦人勞働者と農村婦人よ、この同盟を強化せよ！

同志レーニンは、内外のブルジョアジーにたいして斗争している勞働者階級を支持せよと勤勞者におしえた。

婦人勞働者と農村婦人よ、この遺訓を銘記せよ！ 新しい生活を建設しつつある勞働者階級の権力を支持せよ！

同志レーニンは、すべての圧迫される者の指導者である共產党の旗を高くかかげよと、われわれにおしえた。

婦人勞働者と農村婦人よ、この党のまわりに結集せよ、——共產党は諸君の党である！

(2) イリイチの死後一周年記念日にあたって、党はさげふ、——党とともに新しい生活を建設しつつある婦人勞働者と農村婦人のすすむ道を広くせよ、と。

イ・スターリン

一九二五年一月五日記

『ラボートニツア』『婦人労働者』誌第一号

一九二五年一月